

第4回武蔵野市図書館運営委員会選書部会の記録

日 時 平成19年8月27日 午後6時30分
場 所 中央図書館 4階会議室
出席委員 毛利和弘委員 黒子恒夫委員 木下章子委員 鈴木喜和子委員
日高正登委員 一ノ関中央図書館サービス担当係長
事務局出席職員 河中館長 村田吉祥寺図書館長 山中管理係長
春日中央図書館図書担当係長 前田主事 小澤主事 船崎専門委員

議題及び内容

主な議題内容

(1) 議題

武蔵野市立図書館の選書について

- ・ 外国語資料の収集について

その他

なお、主な意見等は以下のとおり

- ・ 外国語資料収集方針は、平成4年に制定されたものである。

(事務局より平成4年当時の外国語資料収集方針の制定過程を説明) 外国語図書を入れるきっかけは、日本人からの要望があったためである。中央図書館でどんな書籍を集めて欲しいかというアンケートをした結果、外国語図書に集計結果の6.8%の要望があった。そのため、最初は日本人に対してのサービスだった。

- ・ 現在、外国語資料収集はどのようになっているのか。

(事務局) 現在の状況としては、主に英語圏や要望の多いフランス語の洋書を購入しているが、中国語やハングルの書籍は一時期入れて以来在庫数は横ばいとなっており、新聞や雑誌を購入している状態である。外国語図書は年2回書店へ行き、購入するものを決めている。利用者からの外国語図書のリクエストは年間46冊くらいである。

- ・ 特に中国語やハングルの書籍が増えないのはなぜか。

(事務局) 中国語やハングルの書籍が増えない理由として、英語以外の言語で資料データの入力方法ができていないことや、職員の語学力の問題等がある。中国語は簡体字を漢字に置き換え、韓国語はハングル一音で入力しているので検索が困難になっている。

- ・ 今後の外国語図書の選書方法等において、以下の提案が行われた。

選書の際は日本人、外国人両方の視点が必要になる。例えば日本人が語学力の向上のために用いるテキストや日本の文化等を外国人が母国語で読むことが出来る図書などである。そのためにはニーズがどれほどあるのか、留学生などどのような層の外国人が多いのかを調査する必要がある。

ニーズの調査において、武蔵野市国際交流協会(MIA)に協力をお願いするのはどう

か。例えばイベント等でアンケートを実施するなどの協力を要請してみる。

専門書は大学等とも連携を考えてみてはどうか。

(事務局) 大学の本をネットで検索し、紹介する等はしている。

業務を専門の会社やボランティアにアウトソーシングしてはどうか。

立川市や東村山市などの先進的な取り組みをしている他の市の選書法を調査してはどうか。

次回 平成 19 年 11 月 19 日 (月) 午後 6 時 30 分から